



わたなべ 詩子展

1944年と2012年

2012年5月3日(木)-5月13日(日)

友人と駅で待ち合わせをしていたときのこと。
約束の時間になっても彼女の姿はみえなかった。しばらくたつてから、30分ほど遅れると連絡があったので、私は改札の近くにあるカフェにむかった。カウンターのコーヒーを受け取り、空いた席を探した。店内は混雑していたが、運良くテーブル席にすわることができた。奥の席がソファアになっていて、テーブルとテーブルの間は狭く、私は隣りのテーブルにぶつからないようにしながら席につき、読みかけの本をカバンから出した。

「・・・電話したら、浜の方に入院してるっていつてたわよ。膝が動かなくなって・・・去年は私達2人を合わせて8人だったけど、今年はどうなるかしら」
右側に座っているおばあさん達の声が聞こえてきた。どうやら同窓会の打合せをしているようだ。「あの時はみんな・・・したのに・・・」紅茶の横には黄色い手帳が置かれている。私が本に目をおとした時、左側から
「えっ！ーうそー！えっ、いつうそシヨック！」
さつき隣りの席に座った二人組の女の子だ。キヤーカーいいながら、今日の新歓コンパの話をしている。新入生かな。周囲の視線など関係なく、二人は楽しそうに大声で話している。右側のおばあさん達の会話は、いつしか同級生の話題から戦争の時の話になっていた。

私は再び本の文字を目でおった。何ページか読み進んだ所でポケットの中の携帯がなった。「ごめんね。今ついた、どこにいる？」メールだ。「改札の近くにあるカフェ。その奥の席にいるよ。」返信してから、私はコーヒーを飲んだ。

「ホントよ！目の前に爆弾が落ちてきたんだから！」
突然のその声に、私は我にかえった。

コンパの話？

「浦島太郎みたいだったわ、命からがら戻ったら、周りなんにもなくなってる、家も何もかも全部焼けたんだから」
話していたのは、私の右側にいたおばあさんだった。頭の中ではわかっているのだが、このとき一瞬、右側のおばあさんと左側の女の子がすっかり入れ替わってしまい、女の子達が戦争の話をしているみたいだった

関係者各位様

いつもお世話になっております。
この度、わたなべ詩子による個展を開催いたしますので、ここにお知らせいたします。

わたなべ詩子は、様々な人から聞いた話をもとにして、絵画やインスタレーションを制作しています。今回の「1944年と2012年」は、映像の作品です。わたなべが86歳のおばあさんから聞いた“1944年の船の底の話”を台本にし、それを、20歳の学生や27歳の男性、34歳の母親が話します。上記文章は本作品のコンセプトを説明するために書いたものです。

皆様のご来訪を心よりお待ちしております。



youkoboART SPACE

[展覧会情報]

展覧会名：わたなべ詩子展「1944年と2012年」
 会期：2012年5月3日(木)―5月13日(日)
 休廊日：5月7日(月), 8日(火)
 開廊時間：12時-19時(最終日17時まで)

会場：遊工房アールスペースギャラリー

問い合わせ：〒167-0041 杉並区善福寺3-2-10

(Tel)03-5930-5009, (Fax)03-3399-7549, (Email) info@youkobo.co.jp

担当：村田弘子、進藤詩子

[交通のご案内]

公共交通機関：

- ・ JR中央総武線「西荻窪」北口バス2番「上石神井」「大泉学園」行き「善福寺」下車すぐ
 - ・ JR中央総武線・地下鉄丸ノ内線「荻窪」北口バス0番「武蔵関駅」「北裏」行き「善福寺」下車徒歩一分
- 自動車：青梅街道「善福寺三丁目」交差点南、桃井第四小学校北隣

[作家紹介]

わたなべ詩子 / WATANABE Utako

■略歴

- 1977 兵庫県生まれ
 2000 京都精華大学美術学部造形学科日本画専攻 卒業
 2005 東京芸術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻 修了

■主な受賞

- 2005 サロン・ド・プランタン賞受賞 東京芸術大学大学修士制作
 「貝ボタンとしんぼらし」

■主な展覧会

- 2002 取手アートプロジェクト2002 (茨城)
 2003 取手アートプロジェクトオープンスタジオ2003 (茨城)
 「green space2」東京芸術大学+パウハウス大学現代美術交流 (ドイツ)
 2004 「truck gallery」(東京)
 桐生再演10 (群馬)
 「COMMUNICATION/DISCOMMUNICATION」/mejiro open gallery (東京)
 rematerialize/東京芸術大学美術館 取手館 (茨城)
 2005 桐生再演11 (群馬)
 IMA selection Vol.1 [「表現の水際2005」/旧大蔵省関東財務局横浜事務所 (神奈川)
 「Project the Projectors 04-05 台東」/台東区旧坂本小学校 (東京)
 2006 フタバ画廊 (東京)
 2008 姫路市立美術館開館25周年記念現代作家8人展/姫路市立美術館 (兵庫)
 2009 「NO MAN'S LAND」 在日フランス大使館旧庁舎解体前プロジェクト/
 在日フランス大使館旧庁舎 (東京)

主な個展

- 2003 「田中詩子」展 西脇市岡の山美術館アトリエ主催 (兵庫)
 2005 「肖像画の声」 TAPsatellite gallery (茨城)

[アーティスト・ステイトメント]

私はいろいろな人から聞いた話をもとにして、絵画やインスタレーションを制作しています。何かの拍子にふと話される、個人的な話は、体験したことをそのまま話すだけではなくて、その時の状況に合わせながら、着色したり、悲しい余韻をのこしてみたり、笑える話に編集しています。見たことも、聞いたこともないような感情を、その人独自の手法をもって、色とりどりに話している話し手を目の前にすると、会ったことはないけど、まるでシェイクスピアに会っているような気持ちになります。

そんなシェイクスピア達の話をも、私自身もまた、編集しながら、誰かに話したいのだと思います。